粘液栓と乖離した部位に好酸球性肺炎を発症したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症

秋山勇人[1], 石黒 卓[1], 高田直美[2], 高久陽太郎[1,] 清水禎彦[3]
埼玉県立循環器・呼吸器病センター [1]呼吸器内科, [2]放射線科, [3]病理診断科

要旨

喘息治療中の 65 歳女性.発熱,末梢血好酸球増多,および胸部 CT で両側上葉主体の浸潤影,すりガラス陰影,右肺 B^9b の高吸収な構造を有する限局性の気管支拡張を認めた. 気管支鏡検査にて右肺 B^9 から好酸球の集簇を伴う粘液栓を採取した. 血清 IgE 高値,*Aspergillus fumigatus* の沈降抗体陽性からアレルギー性気管支肺アスペルギルス症と診断した. 本例は気管支拡張像が右肺 B^9b に限局し, 肺野に広範な好酸球性肺炎を認めた. 本症に伴う好酸球性肺炎の機序を考察する貴重な症例と考えた.

Key Words: アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (allergic bronchopulmonary aspergillosis : ABPA), 中枢性気管支拡張 (central bronchiectasis), 好酸球性肺炎 (eosinophilic pneumonia), 気管支粘液栓 (mucoid impaction of the bronchi), 粘液栓 (Mucus plug)

短縮表題: 気管支粘液栓と好酸球性肺炎の局在